

第三回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	第三回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 25 年 11 月 27 日 (水)		
開催場所	こども未来創造館 2階 わーくしょっぷスタジオ		
開催時間	10時00分開会～12時00分閉会		
出欠状況	委員現在数	9名	
	出席委員数	8名	欠席委員数 1名
出席者(敬称略)	出席	委員長	平沢 茂 (文教大学教授)
		委員	吉井 謙 (東京大学教授)
	欠席	委員	山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)
		委員	伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)
		委員	鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	青木 信夫 (足立区小学校PTA連合会会長)
		委員	稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生委員)
		委員	染谷 江里 (一般公募)
		委員	坂田 卓也 (一般公募)
事務局	子ども家庭部青少年課	課長	大谷 博信
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	茂木 聡直
	青少年課ギャラクシティ支援担当		首藤 美奈子
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	松野 美幸
	地域文化課文化団体支援係	係長	古川 裕子
	地域文化課文化団体支援係		榎本 佳菜

<p>会議次第</p>	<p>1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 事務局による指定管理者評価 4. 次回の日程調整</p>
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第 資料2 第二回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録(案) 資料3 今回の事務局評価にあたって留意した事項 資料4 管理運営体制 利用者が快適に、安心して過ごせる環境づくりの推進 資料5 管理運営体制 利用者のサービスアップにつながる機能的な組織運営 資料6 子ども体験事業 遊び・創作・科学体験事業他 資料7 子ども体験事業 開発事業・ふれあい交流事業 資料8 まるちたいけんドーム活用事業 まるちたいけんドーム活用事業 資料9 文化事業 豊かな文化芸術に触れる機会の提供 資料10 文化事業 区民との協働による文化活動の振興 資料11 広報事業 利用者のニーズにあわせた取り組みと提案書の遂行</p>

大谷課長	<p>< 1 . 開会 ></p> <p>お忙しい中、第三回ギャラクシティ運営評価委員会に参加していただき、誠にありがとうございます。限られた時間の中、内容も盛り沢山であるが、皆様の活発な意見交換をお願いしたい。</p> <p>まずは委員長挨拶前に、資料を確認する。資料は1から11まであるので、ご確認いただきたい。</p> <p>(各自資料を確認)</p> <p>(傍聴人入場)</p>
平沢委員長	<p>< 2 . 委員長挨拶 ></p> <p>年末が目の前に見えており、今回が2013年内最後の評価委員会となると思う。お忙しい中本当にありがとうございます。今回は事務局の方で大分いろいろ考えてくださり、たくさんの資料が出されている。今日は資料のご説明をいただきながら、資料の内容について改善すべき点がないかなど、提案していただきたいと考えている。12時までという短い時間なので、なるべく能率的に進めたいが、ご意見はご遠慮なくおっしゃっていただきたい。では、早速事務局の方から資料に基づいて説明していただきたい。</p>
茂木係長	<p>< 3 . 事務局による指定管理者評価 ></p> <p>前回の委員会の際、今回は事務局評価を出してほしいとのことだったので、今回資料を揃え、アンケートや客観的な数字について、4月から9月いっぱいまでの半期分で揃えられるものを用意した。</p> <p>今回事務局側で評価したものが資料3以降。また、もう一つ各先生に用意したバインダーがあるが、これは運営評価委員会の際に使っていただくための、区がどういった基準を指定管理者に示したのかという要求水準書である。それに加え、指定管理者から提出された提案書・事業計画書も参考に閉じ込んでいる。それと、後半にはギャラクシティを運営するための条例や規則などの資料を添付している。これらは中身を一つ一つ説明しないが、議論の中で必要があれば都度内容を確認していただきたい。</p>
平沢委員長	<p>その前に、資料2の議事録について確認したい。資料2が議事録案として出されているが、委員の方々はこちらを初めてご覧になるのか。</p>
大谷課長	<p>その通りである。議事録の内容をご確認いただき、修正点などがあれば12月26日までにお伝えいただき、修正の上公表していく。</p>
平沢委員長	<p>ご説明のように、12月26日までに修正すべき箇所などございましたら事務局宛にご連絡いただくということをお願いしたい。</p>

<p>茂木係長</p>	<p>続いて、資料3の説明をお願いしたい。</p> <p>まずは資料3から11まで、落丁がないか丁寧に中身を確認させていただきたい。</p> <p>(説明に基づき資料を確認)</p> <p>では、具体的に項目の審議に入る。</p> <p>まず今回の評価につき、全体的な考え方を青少年課長大谷から申し上げる。</p>
<p>大谷課長</p>	<p>資料3をご覧いただきたい。今回の事務局評価にあたり、留意した項目として資料を作成した。最終的に皆様には来年度当初に評価していただくが、今回上半期の運営状況を事務局で評価した。重点を置いた事項は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提案書の実施状況 2. 提案書には記載されていないが、「評価できる取り組み」と「不足する取り組み」 3. 評価するにあたっては、できる限りの客観的な数字を引用 <p>の3点である。本来は指定管理者からのヒアリングを交え、みなさまに評価していただくものだが、今回は事務局側の書類審査による評価を行った。また、前回の運営評価委員会でのご意見に基づき、下記の点に留意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階の評定を取りやめ、評定する項目を「3」「2」「1」「0」の4段階で設定し、「2」を標準とした。 ・評定項目をあまり細分化しなかった ・施設の安全性や防災・災害などの危機管理の対応を評価項目に加えた ・利用者の声やアンケート結果をできる限り評価に反映した <p>では、2ページ目の評価案に基づいて説明させていただく。</p> <p>評価分野を「管理運営体制」「子ども体験事業」「まるちたいけんドーム事業」「文化事業」「広報事業」の5つの柱に分けて評価する。評価分野毎に複数の評価項目を設け、それぞれを3点満点で評価する。そして、例えば管理運営体制分野の得点が11/15点であれば得点率は73%となるので、管理運営体制分野の評価はB(79%~60%)となる。また、各評価分野には調整比重を設けている。得点率に調整比重(分野毎に1~3のいずれか)を掛け、全分野合計点を1,000点とし、1,000点のうち何点取れたかという得点率を基に総合評価(A~D)を算出する。簡単ではあるが以上である。</p>
<p>平沢委員長</p>	<p>最初に3点満点で点数をつける際、「2」というのは区の要求水準をひとまず満たしているレベルということか。</p>
<p>大谷課長</p>	<p>そうである。</p>
<p>平沢委員長</p>	<p>「1」の場合はそこまで到達していなくて課題がある、「3」の場合は要求水準以上のことをやっているということか。</p>
<p>大谷課長</p>	<p>その通りである。</p>

平沢委員長	そこでまずは素点を出した後、トータルでA B C Dランクをつけるということで理解した。それでは、質問などがあれば遠慮なくおっしゃっていただきたい。
鈴木委員	「0」という評価はどういうことか、有り得ないのではないか。
大谷課長	早急に変えて改善しなくてはいけないという評価である。なお評価分野の中でD評価がある場合は改善命令を出し、それでも改善されない時には指定管理を取り消すこともできる。かなり悪い状態であり、改善まで待つ間もないくらい、今すぐ改善しなくてはいけないひどい状態ということである。
山田委員	評価案を見ると、辛口な評価だと感じられる。友人や知人の評価はもう少し高く、3点満点を増やしてもいいのではないだろうか。また1点の評価項目を見ると、主に提案書の達成状況のところでは1点となっているが、これは半期しか経過していないのでまだ1点という評価しかつけないのか。それとも半期という期間で見ても1点しかつけれないということなのか。
茂木係長	半期だからという理由ではなく、半分という期間で見ても提案書の達成到達度が上から3番目の1という評価ということだ。また、評価が辛いのではという指摘があったが、項目毎に審議する際にアドバイスいただきたいと思う。
平沢委員長	事務局で草案を作る際、例えば管理運営体制の最初の項目が2点になっているが、これがどのような根拠で素点を付けているかという説明があると、よりわかりやすいのではないか。
茂木係長	事務局で足りない視点などがあれば、その時アドバイスいただきたいと思う。
平沢委員長	ひとまずその項目だけ、説明いただけるか。
茂木係長	素点については順次資料と共に説明させていただく。
平沢委員長	了解した。気を付けなければいけないのは、区の要求水準があり、そこに到達しているものが2ということだ。Bは悪い評価ではなく、一応水準を満たしていることに注意していただきたい。また、今のご質問は、ぜひこの後のご説明も踏まえてお考えいただきたい。他に何か意見はあるか。
吉井委員	調整比重のところは、先ほど少々ご説明いただいたが、子ども体験とまるちたいけんのところに一番ウェイトがおかれていて、管理運営と広報事業が1となっている。全体の中身という部分が3になっているのは理解できるが、それをやるにあたっては管理運営や広報事業も非常に重要な気がする。この比重配分の理由はどのようなものか。
茂木係長	今回施設をリニューアルし、区のシティプロモーションの役割を果たしてお客様を集めると

	<p>いう意味で、子ども体験事業とまるちたいけんドーム事業の比重を大きくしている。事務局の考えとしては、管理運営体制と広報事業というのは、メインのバックアップやサポート的な位置付けであるということで、比重はそれぞれ1としている。</p>
吉井委員	<p>理解した。また1つ違和感があるのが、評価の比重が3である子ども体験事業とまるちたいけんドーム事業のところでCがついているにもかかわらず、総合評価がBになっているところだ。つまり、比重を高くした分野の評価が反映されていないような気がする。テクニカルな話かもしれませんが。</p>
平沢委員長	<p>私も最初見た時に、Cが3つ、AとBが1つずつで、トータルでBになるというのは不自然な感じがした。</p>
染谷委員	<p>私も、文化事業が評価を底上げしているようなイメージを受けてしまう。もし私がまるちたいけんの管理をしていたら、総合評価がBだからまだ大丈夫、と思ってしまうかもしれない。</p>
稲塚委員	<p>管理運営体制と広報事業は、大きな意味でのソフトでとても重要な部分で、せめて比重を1ではなく1.5くらいにした方がいいと思う。</p>
平沢委員長	<p>仮に比重を全て1にすると、総合評価はいくつになるのか。</p>
茂木係長	<p>得点率をそのまま足した数字になるので、$316 / 500$で$63\% = B$評価になる。</p>
平沢委員長	<p>やはりBにはなるのか。もしもそちらの方があまり作為的に見えないということであれば、その方が自然だと思う。下手をすると作為的に見えてしまうので。</p>
鈴木委員	<p>調整という言葉が誤解を招くかもしれない。</p>
平沢委員長	<p>委員さん方、逆にこの方が良いという意見はあるか。</p>
伊東委員	<p>私は重み付けがあった方がいいと思う。一番重要なのは、使う人にとっては事業で表れる部分が一番大きいので、その部分がより大きい点数になっているのはむしろ自然であると思う。バックアップの意味で体制や広報があるという考え方でいい。むしろ抜けていると感じるのは、収支、お金の部分である。指定管理を受ける側としては、お金のことを考えないと事業をできないが、その評価はそれぞれの評価に現在潜り込んでいる形なのか。利用者の数や収支は数字にはっきり表れてくるので、評価で明確に反映されていることがわかるほうが良いと思う。</p>
平沢委員長	<p>それは確かにそうだ。比重についてはいろいろな考え方があるが、評価項目については、今おっしゃったような項目を評価の視点に含めることは大事だと思う。事務局で評価の枠を作るのは難しいのか。</p>

茂木係長	利用者とお金の考え方は、各項目に含めている。そのため、トータルでそのような項目を作るといよりは、事務局側としては各項目にそれを盛り込んだという形で提出している。
伊東委員	どこかで数字については明確に示しても良いという気はする。
平沢委員長	この点については、すぐに結論は出ないと思うので、どのようにするのか都合してほしい。それでは、先ほどの比重をどうするかという点について、ご意見はあるか。
吉井委員	比重をつけてももちろん良いが、どのような配点にするかは重要なので、事務局の方からこういう観点からこの数字にしたというような根拠を示さないといけない。
伊東委員	もう1つ。現在総合評価がBランクということだが、Bランクの幅が79%～60%、実際の得点が62.1%なのでBとは言ってもギリギリのBランクである。やはり1年目からCは付けにくい点もあるが、Bだけど下の方のBなので、もっと頑張してほしいという意味でこの点数なのかと感じた。
平沢委員長	最終的にBランクではあるが努力点が多いなど、補足的な文言は入れてもいいのか。
茂木係長	そうである。積極的に委員の方のご意見、委員会全体のご意見を取りまとめて付表、項目を付けたいと思う。
吉井委員	表現としてよくあるのはB-やB+など、中心より上か下かという評価の仕方もある。
平沢委員長	確かにパーセントで言うと、大学の成績のA B C Dランクも大体このような付け方だが、今の吉井先生のご意見は参考になる。数字の幅の付け方はいろいろお考えいただくとして、A B C Dランクの幅を狭めるというのは工夫のしどころである。
茂木係長	了解した。今おっしゃったB-、B+などの段階の話と、調整比重をつけるのであれば根拠を示すということ、そしてテクニカル的な部分も事務局で検証したいと思う。
平沢委員長	比重の点、A B C Dランクの幅の問題、そして数字的な部分の工夫について考えていただくという回答をいただいた。 よろしければ、管理運営の説明をお願いしたい。
茂木係長	管理運営体制について資料4・5に基づいて説明。 資料4は、評価項目：利用者が快適に、安心して過ごせる環境づくりの推進に関する資料。区が示した水準書の抜粋が1枚目、2枚目以降は指定管理者が実際に提案・実施した内容で、最後に事務局評価となっている。 資料5は、評価項目：利用者のサービスアップにつながる機能的な組織運営に関する資料。1枚目は区から要求している水準となる組織・条件、2枚目以降は指定管理者が実際に提案・実施した内容で、最後に事務局評価となっている。

	今回は事務局の視点で評価だったが、こういう視点や資料が必要であるなどのアドバイスをいただきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。
平沢委員長	ありがとうございました。先ほどの素点がどのような根拠で付けられたかというご説明をいただいた。他に評価の視点はないのか、点の付け方はこれで良いのかなど、どんなことでも結構なのでおっしゃっていただきたい。あるいはご質問でも構わない。
伊東委員	ダイレクトな話ではないが、ここは利用料金制度ではないために、利用が増えると指定管理者側はスタッフを増やして対応しなくては行けないが、お金が儲かるわけではない。そのため、彼らの収入は全く変わらない。そしてスタッフの数を増やさなくては行けないとなると、増やしたことに對して区はその手当てはできないのか。
茂木係長	そうである。現実的にはお金の手当てについては、光熱水費以外は難しい。人件費や材料費が嵩んだ分については、他の業務を減らすなどの調整で対応するしかないと思う。
伊東委員	根本的なルールの問題なので、評価とは直接関係ないが、私の会社でも指定管理の業務を受けていて、本当に辛い部分がある。利用料金制度にすれば解決するという問題でもないと思うが、もう少し柔軟にしないと指定管理者としては儲かる事業ではなくなり、赤字を抱えると回収できなくなってしまう。その点は何とかしてあげたいと感じる。
平沢委員長	8月の満足度が若干下がっているのは、今のことと関係あるのか。
茂木係長	事務局の推測だが、やはり8月は資料3裏側のとおり、来場者数が15万人程度の4、5月と比べ、19万人とかなり突出している。行列ができたり、待ち時間が長かったことを考えると、お客様の満足度が下がってしまったのではないかと考えられる。
平沢委員長	やはり今ご指摘の問題点は、指定管理の根本的な問題である。いい解決方法はないのだろうか。
吉井委員	区の方から出した総括責任者数や事業推進担当数などの数字が出ているが、それはどのくらいの人数が来た時にこの人数だという考え方はあるのか。
茂木係長	資料3の1番後ろのページに利用想定があり、区側としては体験事業で年間約37万・文化ホール側で16万というのがオープン前の見込み数字だった。そのためこれを想定して人員配置や予算を考えていた。
平沢委員長	ということは、今年の実績を踏まえ改定の可能性も有り得るということか。
茂木係長	良い回答をしにくいですが、考えたいと思う。
平沢委員長	やはりこれは、大きな問題である。

茂木係長	それと同時に来年度は消費税のアップもある。そのため、その分の手当ても含め、現場の指定管理者とは業務の中身を含めて調整しなくてはいけないと考えている。
吉井委員	人数が非常にたくさん来た時に、配置する人員を増やすだけでは解消できないこともあると思う。例えば、体験事業に並んだ時に待ち時間を減らせるわけではない。そのあたりはどう考えているのか。
茂木係長	基本的には、吉井先生がおっしゃったような施設のキャパシティを超えた部分に関しては、工夫しても対応のしようがないというのが現実的なところである。例えば並んでいる列に迷路を置く、ちょっとした遊べるカードを壁に貼るなどして、楽しく待てるような工夫を館側が何とかしているという状況である。
平沢委員長	それでも限界がある。
吉井委員	入場制限のようなことは将来的に考えているのか。
茂木係長	今のところは考えていない。
吉井委員	やはり待ち時間のところで不満が出るのは避けられないため、何か考えないといけないと思うが、一般の商業ベースの施設ではどのようにしているのだろうか。
平沢委員長	ディズニーランドは、その日に限った入場制限をすることがあると聞いた。サービスが行き届かなくなるということがあるので、日にちをスタンプした入場券を相当数販売しておき、その他はある程度のところで制限するそうだ。今おっしゃったように、ある種の制限はかけないとサービスが行き届かないというのは考えているようだ。
茂木係長	吉井先生がおっしゃった入場制限や他の商業施設の対応というのは、本格的には検討していなかった。しかし、今年1年間運営して混み具合なども見えてきたので、お客様を待たせない、待たせるのであれば楽しませる対応を館側と相談していきたいと思う。
平沢委員長	その点では、閑古鳥が鳴いているよりはいいが、難しい問題だ。根本的な施設管理・運営の問題であり、ここで今すぐに結論は出ないと思うが、いい問題指摘だった。少し時間をかけて、次年度に向けてご検討いただきたい。それに関連して他に意見はあるか。
稲塚委員	子育てサロンなどもこの中に入るのか。
茂木係長	そうである。
稲塚委員	子育てサロンでは、一時預かりと親子で来る方が全部一緒くたになっている。アンケートにはないが、2, 3歳から小学生までの子を連れて行く時に、暴れてしまうとダメなので2度

	<p>目は行きにくいという声を聞いたことがある。狭いところで小さな子どもが寝ている中で仕切りを設けるなど、区と施設側における改善案などは持ち上がっているのか。</p>
<p>茂木係長</p>	<p>子育てサロン事業は住区推進課と館側で調整してやっているが、子育てサロンは利用者の声が多い場所である。改善すべき点については館側もいろいろと把握しており、課題を解決しようと試みている最中である。ご意見を参考に館側にまたフィードバックしたいと思う。この場で結論を出すことはできないが、宿題にさせてほしい。</p>
<p>稲塚委員</p>	<p>了解した。もう1点障がい者の車椅子の方などが利用される時についてだが、障がい者の方が来た時に介助するスタッフがついて行くといったような障がい者対応はどのようになっているのか。</p>
<p>茂木係長</p>	<p>まずプラネタリウムについては、障がい者が見る観覧エリアを設け、スタッフが案内して見えるように配慮している。また、自動販売機では障がい者の方も購入しやすいように取り出し口やお金を入れる場所を低めにしたりしている。今回の改修工事では、段差がある部分は極力解消するなどして対応している。</p>
<p>稲塚委員</p>	<p>車椅子の貸し出しはしているか。</p>
<p>茂木係長</p>	<p>館に常に2台置いており、要望があればお貸ししている。</p>
<p>稲塚委員</p>	<p>了解した。障がい者の方が来られるということは、他の方が来やすいということにもよく繋がるため、リードしていただきたいと思う。</p>
<p>平沢委員長</p>	<p>このような会議では、閑古鳥が鳴いていてどうするか、といった内容の会議が多く、ある意味では贅沢な悩みだと感じる。しかし大変な問題であるので、このようなご要望を入れながら指定管理の仕組みについてお考えいただきたいと思う。ありがとうございました。それでは次の内容に行きたいと思う。次は子ども体験事業をお願いしたい。</p>
<p>村上係長</p>	<p>子ども体験事業とまるちたいけんドーム事業について資料6・7・8に基づいて説明。 資料6は、評価項目：遊び・創作・科学体験事業他に関する資料。 なお、先ほど一般の評価と比べて厳しいのではないかというご意見があったが、子どもたちに大変人気のある「スペースあすれちっく」や「クライミングぱーく」などの施設の評価は「子ども体験事業」には含まれず、むしろ「快適に過ごせる環境づくり」の中に、施設固有の設備として評価が含まれている点をご理解いただきたい。 資料7は、評価項目：開発事業・ふれあい交流事業に関する資料。 資料8は、評価項目：まるちたいけんドーム活用事業に関する資料。</p>
<p>平沢委員長</p>	<p>それでは資料6, 7, 8についてご質問・ご意見などがあればお願いしたい。</p>
<p>山田委員</p>	<p>開発事業とふれあい交流事業について、資料5に組織図があるが、この事業は担当でいうと</p>

	どなたが担当されているのか。
村上係長	元々区の想定では、人材育成・地域連携の方が担当だが、現状は遊び体験事業推進担当と人材育成・地域連携担当が合わさっている状態である。また、ドームに関してはマルチドーム事業推進担当と両方が連携しないと進まない部分である。
山田委員	ボランティアコーディネーターのような立場の方はいるのか。
村上係長	コーディネーター専属はいないが、遊び体験事業チームの常勤6名のうち1名がボランティア担当になっており、科学体験事業等の企画実施をしながらボランティア担当をしているという状態である。
山田委員	私もおもちゃ美術館のボランティアが200名おり、実際にボランティアが館内の接客をする部分もある。やはりオープンして最初の時期はとても大事で、オープン時期を支えたスタッフはボランティアの継続がすごく長い。今の時期にボランティアの人数が少ないとか、モチベーションを失っているというのはとてももったいないので、頑張ってもっと活躍してほしいと思う。また、ボランティアが増えてくることで、パートタイムスタッフが担っていて賄いきれない事業もボランティアにお願いすることもできる。人件費の削減にも繋がるので、ボランティアコーディネーターの方や他の事業と連携して上手くいくと良いと思う。
平沢委員長	ボランティアの組織作りでヒントになるような話はあるか。
山田委員	特に有給の方とボランティアスタッフの方がいる場合は、ボランティアの方は常にいるわけではないので、手間がかかり、ある程度準備しておかなければいけないということはある。そのため、パートよりも事前に準備が必要なので、ボランティアコーディネーターの方がその点を理解して、よりボランティアが気持ち良く運営ができるような雰囲気を作ることが大事である。オープンして半年でなかなかそこまで行かないとは思いますが、今の時期が大切なので何とか頑張してほしいと思う。
平沢委員長	この件については、吉井先生からも私の大学の学生ボランティアを組織的に派遣できないかという相談をいただいた。しかし大学が越谷にあり、教員養成のためこちらの方まで学生の派遣をすることは難しい。足立区内の大学との手の結び方で工夫された点はあるか。
村上係長	東京未来大学については、心理専攻の授業で上半期にボランティア体験が授業の単位になるということで、学生が何人も来てくれることが多くある。
平沢委員長	担当の先生との調整具合はどうか。
村上係長	それほどはなかったが、青少年課と長い付き合いがあるため、青少年課が窓口になり館のスタッフを紹介して設定をした。他の大学の先生方との関係についても、十分にはできていないのが現状である。

平沢委員長	<p>足立の楽学の会のシンポジウムの際に目白大学の先生から、ボランティアの活動を求める場合、大学の科目を担当している先生にお願いするだけではなく、許可を得て大学生と直接接触した方がいいという話を聞いたことがある。村上さん一人では難しいと思うが、館のスタッフとも調整していくべきだと思う。ボランティアの方が会議に3人しか来ないというようなお話はとても気になる。ぜひ参考にさせていただきたい。</p>
村上係長	<p>こちらに関しては我々もかなりてこ入れをしており、今度の日曜日には東京未来大学の学生を中心に、宿題応援隊をきっかけに17名ほどイベントで活動する予定である。館と繋がりを作りながらやっていきたいと考えている。</p>
稲塚委員	<p>学生もとても良いと思うが、やはりママ、ママOBのような方も大事だ。来なさいというだけではなく、細やかに担当の方が熱意を持ってやらなくてはいけないと思う。コーディネーターなどはとても大事で、つまり育てることがとても大事で、館を上手く運営していくことになると思う。またお母さん方が子どもを連れてきて終わりではなく、PTAや町会など、多くの人を引っ張ってきてもらえるようになると良いと思う。</p>
平沢委員長	<p>そういう意味では、やはりコーディネーターが重要である。</p>
稲塚委員	<p>それともう1つ、お絵かきスペースはとても良い。与えられたものだけではなく、自由にやれる場所は本当はないので、落書きができるということはもっと大きな意味で宣伝したら良いと思う。お母さん方も勝手に線を引いていいような形は、発展していくと大きなポイントになると思う。</p> <p>またもう1つ、プラネタリウムについて。アタカマと繋がらないことがあるという風に聞くことがあるが、そのようなことがあるか。</p>
吉井委員	<p>実はチリではほとんど雨や雪が降ったりはしないのだが、今年は50年ぶりに積雪がひどく、しばらく修理ができないという状況があった。今はもう回復している。</p>
稲塚委員	<p>やはりそれが結構評判で、見られなかった方がそのまま来なくなってしまったりすることがあるため、再入場券などがあるとまた来てくれて良いのではないかと思う。</p>
吉井委員	<p>こちらの方の手違いもあった。50年ぶりの積雪ということでいろいろなところにご理解いただいている。</p>
平沢委員長	<p>そのあたりの繋がらない理由の説明なども、きっと必要なのだと思うので、館の運営の話として是非参考にしてほしい。</p>
吉井委員	<p>村上さんから説明があり、大分問題点が出てきたと思う。現在の時点で、基本的に新しいアイデアで魅力的なプログラムを開発する能力がない。また、大学連携や一般の人からボランティアを募ることも含め、系統的に確保する手立てができていない。ギャラクシティを作る</p>

	<p>前の段階では、ここには開発する部門があり、司令塔になってちゃんと作るので、こなれた段階で実施する人たちに下ろしていくという話を聞いていた。そう考えると、現在司令塔の部分が機能していないのではないかと思う。またボランティアを確保する、開発をする点を全て指定管理者の評価に結びつけるのは酷のような気がする。指定管理者の人が頑張ってアイデアを出す、開発部隊を組織するというのは難しい気がする。大学や一般の人からボランティアを募るというのを、現は在青少年課の村上さんが大学とのネットワークを持ってやってらっしゃる。その役割を指定管理者ができるかという、民間業者であるので大学や他の公共団体とコンタクトするというのはできないと思う。彼らができるとすれば、コーディネーターがちゃんと機能しないと実現できない、というような意見をまとめ、区に報告してもらうことだと思う。頑張っても、ボランティアを系統的に確保するのは指定管理者側ではできないと思う。アウトリーチの事業がほとんどないというところを見ると、年間予定300万円のうち現在100万円の事業費実績である。そして今後もあまり実施できないことを考えると、数をこなす方針に転換しない限りお金は余る。指定管理者が余ったお金をスタッフ確保に回す努力をしているとは思わないが、評価するときに指定管理者に全て押し付けて評価を1にするというのは、適正なのかという思いはある。</p>
村上係長	それは、項目として入れないという選択になるかと思う。
吉井委員	項目としては良いが、開発などの部分を充実させると言うだけでは無理で、区側がどのような具体的なアドバイスをしているかに関わると思う。
村上係長	ここには載せていないが、4月からそれをやってきているけれどもできていないということである。青少年課が何もしていないわけではなく、私が週の半分はここに来ているというのは正にそのためであり、なかなかそれが実現できていないためにこのように書いてある。
吉井委員	了解した。理解はした。
平沢委員長	確かに開発部分というのは頭脳に該当するので、相当程度区としてもバックアップして、組織作りの支援をしないとなかなか進まないだろう。その意味もあって吉井先生がご出席くださっていると思うし、ぜひ知恵を拝借して区としても組織作りを支援していただきたい。非常に重要なお話だと思う。
村上係長	このあたりに関しては、中高生のGがくえんのクラブ活動をはじめ、大学生の活動など、青少年課ではお金も人も注ぎ込んで、一緒に共同作業でやっている状況である。
吉井委員	そのような取り組みをやっているのであれば、それがわかるような組織図があった方が良いと思う。
平沢委員長	先ほどの質問とも絡むが、少し茫洋としてしまっているの、そのあたりも少し課題だと思う。ここで事務局に進行についてご質問だが、今日のところはこのあたりでもう少しだけ意見

	をいただき、次の文化部分は次回に回してもよいか。
大谷課長	問題ない。
平沢委員長	では今日はここまでのところで残っているご意見を頂戴して、子ども体験のところまで打ち止めにしたいと思う。
伊東委員	数字の部分だが、資料6の人件費の部分で、指定管理者が半期で人件費3,300万円を使っている中、区の年間想定予算では4,900万円ということで、もうかなりのパーセントを使ってしまっている。となると、後期がどうになってしまうのが心配である。
茂木係長	正直に言って、今回数値的なものからアプローチしようという皆様のご意見で数字を集めた段階で、具体的な数字を知った。今後の館全体の運営の進め方と合わせて検討したいと思う。例えば法定点検でない設備点検を削減するなど、細かな点を含めて調整したい。
伊東委員	それと、評価の考え方についてだが、10回やれと言ったことに対して10回やるのが満点なのか、それとも10回やるより20回やる方がより点数が高いのだろうか。先ほど量の問題と質の問題を挙げられていたが、数をたくさんやっているけれど質が問題だとおっしゃっていたので、そことも関連する話で、数を打つためにお金をかけてしまっているとすれば、少々方向がずれてしまっているのではないかという気がする。
染谷委員	必須事業の要求回数が数字で見ると多いような気がしてしまい、それをこなすのに手一杯であるとすれば、区の要求がそもそも高すぎるのかなという気がする。アンケートが未実施であるというのは、こなすので手一杯というのが理由なのではないかと思う。
平沢委員長	あちらこちらの行政評価で、どうしても数字が出てくると評価しやすいのだが、今のような問題にはいつも違和感がある。数字だけが全てかと言うが、どうしても行政評価では数字が出てくる。でも、今のご意見は本当に大事で、数字以外の評価も当然あると思う。評価は本当に難しいが、行政側に工夫をしていただき、私たちも知恵を出さなくてはいけない。例えば、各小学校に英語活動の指導者を何名ずつ配置する、何名配置できたから100点というような話があるが、その際に質はどうかということは問題になっていない。それでは大変問題だと思うので、今回どう評価するかという問題の中で、皆様からご意見いただきながら今のご意見をご勘案いただきたいと思う。
茂木係長	数字以外の評価を考えて提案するという事は、宿題とさせていただきたい。
平沢委員長	できればお願いしたいと思う。
鈴木委員	1つお聞きしたい。今回初めてアンケートを反映していただいて非常に参考になったが、サンプリングの手法についてどのような形でされているのか、ご説明いただきたい。

茂木係長	<p>基本的には平日と土日という区分けで、それぞれ100件ずつ6月から定期的に取り替えている。対象は子ども館の入り口のあたりで、お子様連れを中心に100件ずつ取り替えている。もう1つは、地下や文化ホールの貸館について、別途利用者にアンケートを書いている。</p>
鈴木委員	<p>モニタリングをしているということか。</p>
茂木係長	<p>モニタリングまではいかないが、用紙を用意して を付けたり、意見を記入していただくという形である。</p>
平沢委員長	<p>まだご意見はあるか。</p>
伊東委員	<p>ではもう一言だけ。前回お願いしたことを今日これだけ反映していただいたのは、すごく頑張っていたのだと思う。大変感謝する。</p>
平沢委員長	<p>本当にそう思う、これだけの資料をお揃えいただき、実際に評価をしていただいて、我々としてもどうすれば良いのかがよく理解できた。大変感謝したいと思う。</p> <p>まだまだご意見が有ると思うが、次回は文化事業について2つを考えていきたいと思う。</p> <p>< 4 . 次回の日程調整 ></p> <p>各委員と事務局調整の結果、次回開催日は2月4日（水曜日）午前 10 時からわーくしょっぷスタジオで開催に暫定決定。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>